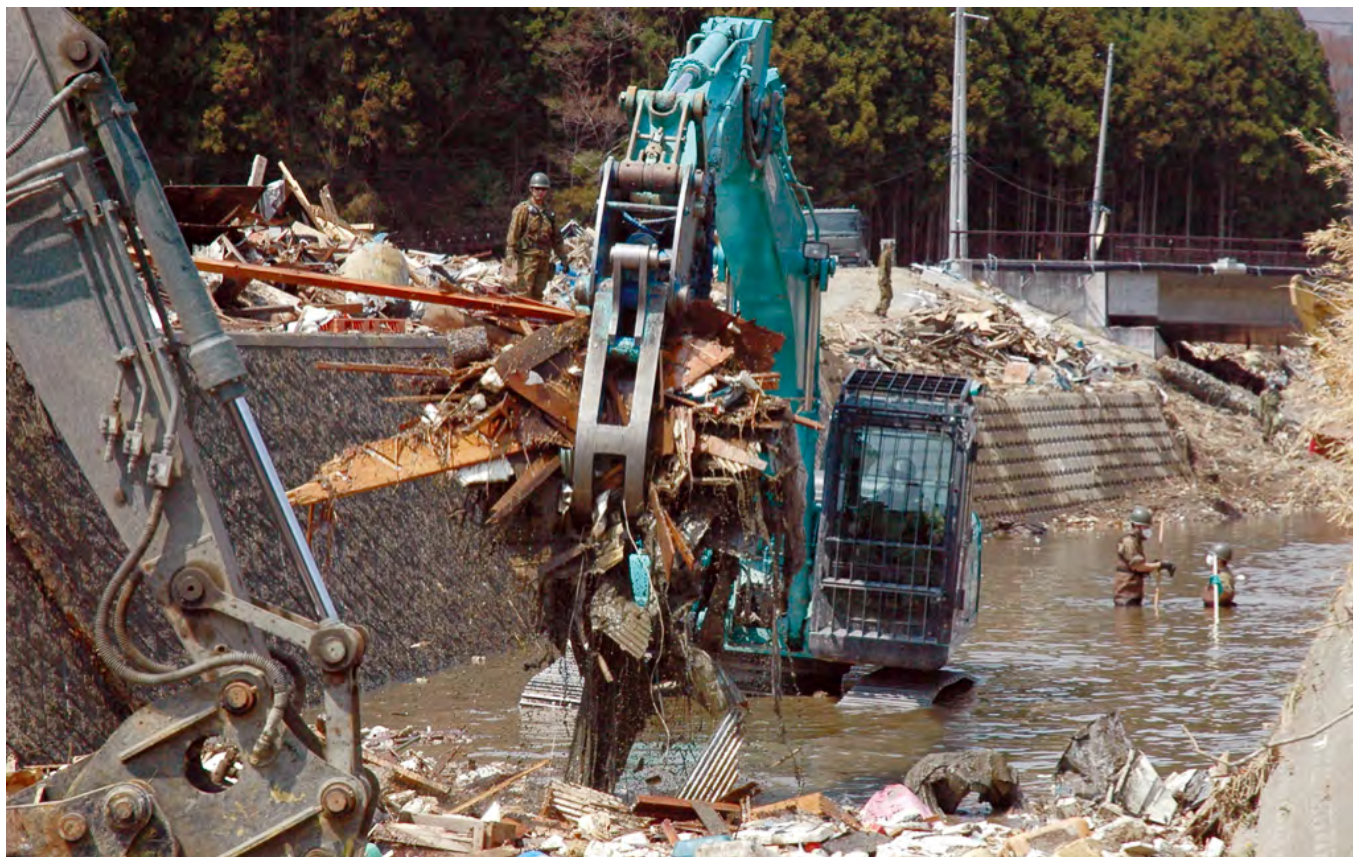
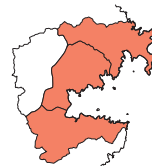




▲ 2011（平成 23）年 4 月 26 日 志津川地区田尻畑での行方不明者搜索。

写真提供 陸上自衛隊北部方面隊

地元の建設会社は、社屋や社員の自宅の多くが被災した。しかし、流失を免れた重機もあった。今こそ、やれることをやろうと、震災から 1 週間後、高台にあった一社に、建設会社の幹部たちが集合し、対策本部を立ち上げた。

動かせる重機を持っている会社が 12～13 社ある。3 班に分かれて作業を進める計画を立てた。燃料がない。職人も足りない。毎日生じる様々な問題をオール南三陸で乗り越えた。

特に自衛隊との連携作業はうまくいった。当初は、自衛隊の行方不明者搜索が終わったエリアで、地元の建設会社が瓦礫撤去を行う手順を取っていたが、二度手間になることから、瓦礫撤去と同時に行方不明者の搜索を行うことにした。こうして遺体の発見と収容を早めることができた。少しでも早く帰ってきてほしいと願う遺族の思いに応えたいと、現場での連携が進んだ。

これをきっかけに自衛隊との信頼関係が育まれ、その後の復旧作業においても、地元の建設会社は力を合わせて大活躍した。